AnyConnect クライアントとインストーラのカスタマイズとローカライズ

- AnyConnect インストール動作の変更 （1 ページ）
- DSCP の保存の有効化 （10 ページ）
- パブリック DHCP サーバ ルートの設定 （11 ページ）
- AnyConnect GUI テキストとメッセージのカスタマイズ （11 ページ）
- AnyConnect GUI のカスタム アイコンおよびロゴの作成 （19 ページ）
- AnyConnect クライアントのヘルプ ファイルの作成とアップロード （28 ページ）
- スクリプトの作成および展開 （29 ページ）
- AnyConnect API によるカスタム アプリケーションの作成と展開 （34 ページ）
- AnyConnect CLI コマンドの使用 （35 ページ）
- ISE 展開のための AnyConnect カスタマイズおよびローカリゼーションの準備 （38 ページ）

AnyConnect インストール動作の変更

ガイドライン

- Web 展開では、クライアントレス SSL ポータルの一部である AnyConnect Web 起動を使用します。クライアントレス SSL ポータルはカスタマイズできますが、このポータルの AnyConnect 部分はカスタマイズできません。たとえば、[AnyConnect の起動（Start AnyConnect）] ボタンはカスタマイズできません。

カスタマー エクスペリエンス フィードバックの無効化

カスタマー エクスペリエンス フィードバック モジュールは、デフォルトで有効になっています。このモジュールは、カスタマーがどの機能およびモジュールを有効にし、使用しているかという匿名の情報をシスコに提供します。この情報によりユーザエクスペリエンスを把握できるため、シスコは品質、信頼性、パフォーマンス、ユーザエクスペリエンスを継続して改善できます。

カスタマー エクスペリエンス フィードバック モジュールを手動で無効にするには、スタンドアロン プロファイル エディタを使用して CustomerExperience_Feedback.xml ファイルを作成します。AnyConnect サービスを停止し、ファイルの名前を CustomerExperience_Feedback.xml にし、C:\ProgramData\Cisco\Cisco AnyConnect Secure Mobility Client\CustomerExperienceFeedback\ ディレクトリにそのファイルを配置する必要があります。ファイルが無効フラグを設定して作成されると、AnyConnect に手動で展開できます。結果を確認するには、[AnyConnect について（AnyConnect About）] メニューを開き、カスタマーエクスペリエンス フィードバック モジュールが [インストール済みモジュール（Installed Module）] セクションにリストされていないことを確認します。

カスタマー エクスペリエンス フィードバックは、次を使用して無効にできます。

- カスタマーエクスペリエンス フィードバック モジュールのクライアント プロファイル：[カスタマーエクスペリエンス フィードバック サービスの有効化（Enable Customer Experience Feedback Service）] をオフにして、プロファイルを配布します。
- MST ファイル：anyconnect-vpn-transforms-X.X.xxxxx.zip から、anyconnect-win-disable-customer-experience-feedback.mst を抽出します。

インストール動作の変更、Windows

- AnyConnect のインストール動作を変更するには、Windows インストーラのプロパティを使用します。これらのプロパティは次で使用できます。
  - コマンド ライン パラメータ：1 つ以上のプロパティが、コマンド ライン インストーラ msiexec のパラメータとして渡されます。この方法は、事前展開に使用します。Web 展開ではサポートされません。
  - インストーラ トランスフォーム：トランスフォームを使用して、インストーラのプロパティテーブルを変更できます。トランスフォームの作成には、いくつかのツールを使用できます。一般的なツールの 1 つが Microsoft Orca です。Orca ツールは、Microsoft Windows Installer Software Development Kit（SDK）の一部で、Microsoft Windows SDK に同梱されています。Windows SDK を入手するには、http://msdn.microsoft.com を参照し、使用している Windows のバージョンに対応する SDK を探します。

    トランスフォームは、事前展開のみに使用できます。（ダウンローダがインストーラを呼び出したときに、シスコによって署名されたトランスフォームのみが Web 展開を実行します。）アウトオブバンドの方法で、自分のトランスフォームを適用できますが、詳細は、このガイドの範囲外です。

- ISO イメージでは、インストーラ プログラム `setup.hta` は HTML であり、編集可能です。

制限事項

AnyConnect アンインストール プロンプトはカスタマイズできません。

クライアント インストールをカスタマイズする Windows インストーラ プロパティ

次の Windows インストーラ プロパティで、AnyConnect インストールをカスタマイズします。他にも Microsoft によってサポートされる数多くの Windows インストーラ プロパティがあることに留意してください。

- システム MTU のリセット：VPN インストーラ プロパティ（RESET_ADAPTER_MTU）が 1 に設定されている場合、すべての Windows ネットワーク アダプタの MTU 設定がデフォルト値にリセットされます。変更を有効にするには、システムをリブートする必要があります。

- Windows ロックダウンの設定：デバイスの Cisco AnyConnect Secure Mobility Client に対するエンド ユーザのアクセス権は制限することを推奨します。エンド ユーザに追加の権限を与える場合、インストーラでは、AnyConnect サービスをユーザとローカル管理者がオフにしたり停止したりできないようにするロックダウン機能を提供できます。また、サービス パスワードを使用して、コマンド プロンプトからサービスを停止できます。

  VPN、ネットワーク アクセス マネージャ、Web セキュリティ、ネットワーク可視化モジュール、および Umbrella ローミング セキュリティ モジュールの MSI インストーラは、共通のプロパティ（LOCKDOWN）をサポートします。LOCKDOWN が 0 以外の値に設定されている場合、インストーラに関連付けられた Windows サービスをエンドポイント デバイスでユーザまたはローカル管理者が制御することはできません。サンプルのトランスフォームを使用して、このプロパティを設定し、ロックダウンした各 MSI インストーラにトランスフォームを適用することを推奨します。サンプルのトランスフォームは、Cisco AnyConnect Secure Mobility Client ソフトウェア ダウンロード ページからダウンロードできます。

  1 つ以上のオプション モジュールに加えてコア クライアントを展開する場合、LOCKDOWN プロパティを各インストーラに適用する必要があります。この操作は片方向のみであり、製品を再インストールしない限り削除できません。

  （注） AMP イネーブラ インストーラには、VPN インストーラが組み合わされています。

- ActiveX コントロールの有効化：AnyConnect 事前展開 VPN パッケージの以前のバージョンでは、VPN WebLaunch ActiveX コントロールがデフォルトでインストールされていました。AnyConnect 3.1 以降では、VPN ActiveX コントロールのインストールはデフォルトでオフになっています。この変更は、最もセキュアな設定をデフォルトにするために行われました。

  AnyConnect クライアントとオプション モジュールを事前展開する際、VPN ActiveX コントロールを AnyConnect でインストールする必要がある場合には、msiexec またはトランスフォームとともに NOINSTALLACTIVEX=0 オプションを使用する必要があります。

- [プログラムの追加と削除（Add/Remove Program List）] リストでの AnyConnect の非表示：インストールした AnyConnect モジュールをユーザの Windows コントロール パネルの [プログラムの追加と削除（Add/Remove Program List）] リストに表示されないようにするこ

とができます。インストーラに ARPSYSTEMCOMPONENT=1 を渡すと、そのモジュールはインストール済みプログラムのリストに表示されなくなります。

サンプルのトランスフォームを使用して、このプロパティを設定し、非表示にする各モジュールの MSI インストーラごとにトランスフォームを適用することを推奨します。サンプルのトランスフォームは、Cisco AnyConnect Secure Mobility Client ソフトウェア ダウンロード ページからダウンロードできます。

AnyConnect モジュール用の Windows インストーラ プロパティ

次の表に、MSI インストール コマンド ライン コールの例およびプロファイルの展開先を示します。

インストールされるモジュール	コマンドおよびログ ファイル
VPN なしの AnyConnect コア クライアント機能 （スタンドアロン モジュールのインストール時に使用）	msiexec /package anyconnect-win-*version*-predeploy-k9.msi /norestart /passive PRE_DEPLOY_DISABLE_VPN=1 /lvx* anyconnect-win-*version*-predeploy-k9-install-datetimestamp.log
VPN ありの AnyConnect コア クライアント機能	msiexec /package anyconnect-win-*version*-predeploy-k9.msi /norestart /passive /lvx* anyconnect-win-*version*-predeploy-k9-install-datetimestamp.log
カスタマー エクスペリエンスのフィードバック	msiexec /package anyconnect-win-*version*-predeploy-k9.msi /norestart /passive DISABLE_CUSTOMER_EXPERIENCE_FEEDBACK=1 /lvx* anyconnect-win-*version*-predeploy-k9-install-datetimestamp.log
Diagnostic and Reporting Tool（DART）	msiexec /package anyconnect-win-*version*-dart-predeploy-k9.msi /norestart /passive /lvx* anyconnect-win-*version*-dart-predeploy-k9-install-datetimestamp.log
SBL	msiexec /package anyconnect-win-*version*-gina-predeploy-k9.msi /norestart /passive /lvx* anyconnect-win-*version*-gina-predeploy-k9-install-datetimestamp.log
ネットワーク アクセス マネージャ	msiexec /package anyconnect-win-*version*-nam-predeploy-k9.msi /norestart /passive /lvx* anyconnect-win-*version*-nam-predeploy-k9-install-datetimestamp.log

インストールされるモジュール	コマンドおよびログ ファイル
Web セキュリティ	msiexec /package anyconnect-win-*version*-websecurity-predeploy-k9.msi /norestart/passive /lvx* anyconnect-win-*version*-websecurity-predeploy-k9-install-datetimestamp.log
ポスチャ（Posture）	msiexec /package anyconnect-win-*version*-posture-predeploy-k9.msi /norestart/passive /lvx* anyconnect-win-*version*-posture-predeploy-k9-install-datetimestamp.log
ISE ポスチャ	msiexec /package anyconnect-win-*version*-iseposture-predeploy-k9.msi /norestart/passive /lvx* anyconnect-win-*version*-iseposture-predeploy-k9-install-datetimestamp.log
AMP イネーブラ	msiexec /package anyconnect-win-*version*-amp-predeploy-k9.msi /norestart/ passive /lvx* anyconnect-win-*version*-amp-predeploy-k9-install-datetimestamp.log
ネットワーク可視性モジュール	msiexec /package anyconnect-win-*version*-nvm-predeploy-k9.msi /norestart/ passive /lvx* anyconnect-win-*version*-nvm-predeploy-k9-install-datetimestamp.log
Umbrella ローミング セキュリティ モジュール	msiexec /package anyconnect-win-*version*-umbrella-predeploy-k9.msi/norestart/ passive /lvx* anyconnect-win-*version*-predeploy-k9-install-datetimestamp.log

適応型セキュリティ アプライアンスへのカスタマイズされたインストーラ トランスフォームのインポート

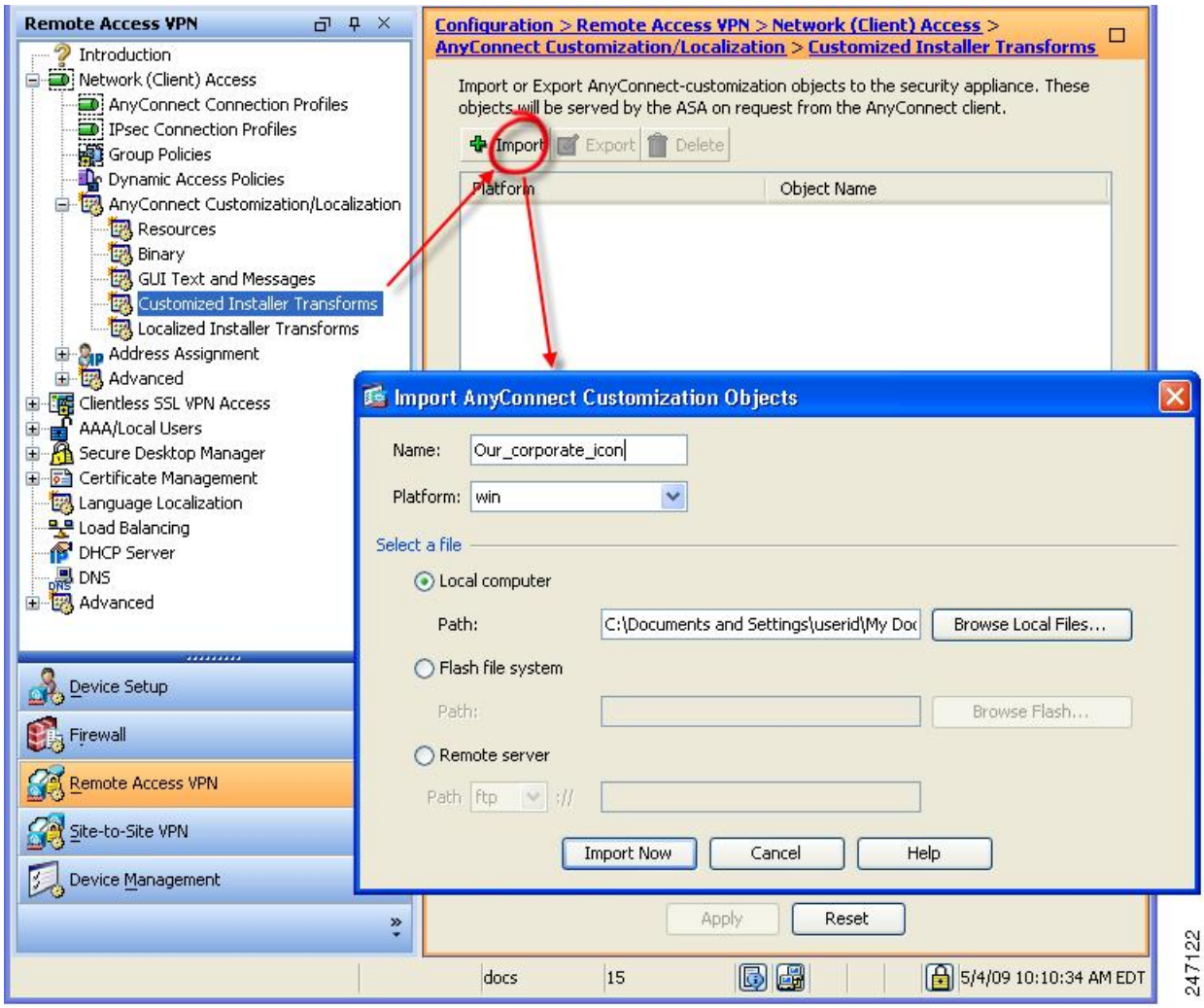
シスコが提供する Windows トランスフォームを適応型セキュリティ アプライアンスにインポートすると、Web 展開に使用できます。

手順

ステップ 1 ASDM で、**[設定（Configuration）] > [リモート アクセス VPN（Remote Access VPN）] > [ネットワーク（クライアント）アクセス（Network (Client) Access）] > [AnyConnect カスタマイゼーション/ローカリゼーション（AnyConnect Customization/LocalizationScript）] > [カスタマイズされたインストーラ トランスフォーム（Customized Installer Transforms）]** に移動します。

ステップ 2 [インポート（Import）] をクリックします。

[AnyConnect カスタマイゼーション オブジェクトのインポート（Import AnyConnect Customization Objects）] ウィンドウが表示されます。



ステップ 3 インポートするファイルの名前を入力します。他のカスタマイズ用オブジェクトの名前とは異なり、この名前は ASA にとって重要ではないため、自由に指定できます。

ステップ 4 プラットフォームを選択し、インポートするファイルを指定します。[今すぐインポート（Import Now）] をクリックします。インストーラ トランスフォームのテーブルにファイルが表示されます。

AnyConnect インストーラ画面のローカライズ

AnyConnect インストーラに表示されるメッセージを翻訳できます。ASA はトランスフォームを使用して、インストーラに表示されるメッセージを翻訳します。トランスフォームによってインストレーションが変更されますが、元のセキュリティ署名 MSI は変化しません。これら

のトランスフォームではインストーラ画面だけが翻訳され、クライアント GUI 画面は翻訳されません。

（注） AnyConnect のすべてのリリースには、ローカライズされたトランスフォームが含まれています。このトランスフォームは、管理者が、新しいソフトウェアを含む AnyConnect パッケージをアップロードするときに必ず、適応型セキュリティ アプライアンス（ASA）にアップロードできます。ローカリゼーション トランスフォームを使用している場合は、新しい AnyConnect パッケージをアップロードする際に、必ず cisco.com の最新リリースでローカリゼーション トランスフォームをアップデートしてください。

現時点では、30 の言語に対応するトランスフォームが用意されています。これらのトランスフォームは、cisco.com の AnyConnect ソフトウェア ダウンロード ページから、次の .zip ファイルで入手できます。

```
anyconnect-win-<VERSION>-webdeploy-k9-lang.zip
```

このファイルの <VERSION> は、AnyConnect のリリース バージョン（4.3.xxxxx など）を表します。

アーカイブには使用可能な翻訳用のトランスフォーム（.mst ファイル）が含まれています。用意されている 30 以外の言語をリモート ユーザに表示する必要がある場合は、独自のトランスフォームを作成し、それを新しい言語として ASA にインポートすることができます。Microsoft のデータベース エディタ Orca を使用して、既存のインストレーションおよび新規ファイルを修正できます。Orca は、Microsoft Windows Installer Software Development Kit（SDK）の一部で、Microsoft Windows SDK に同梱されています。

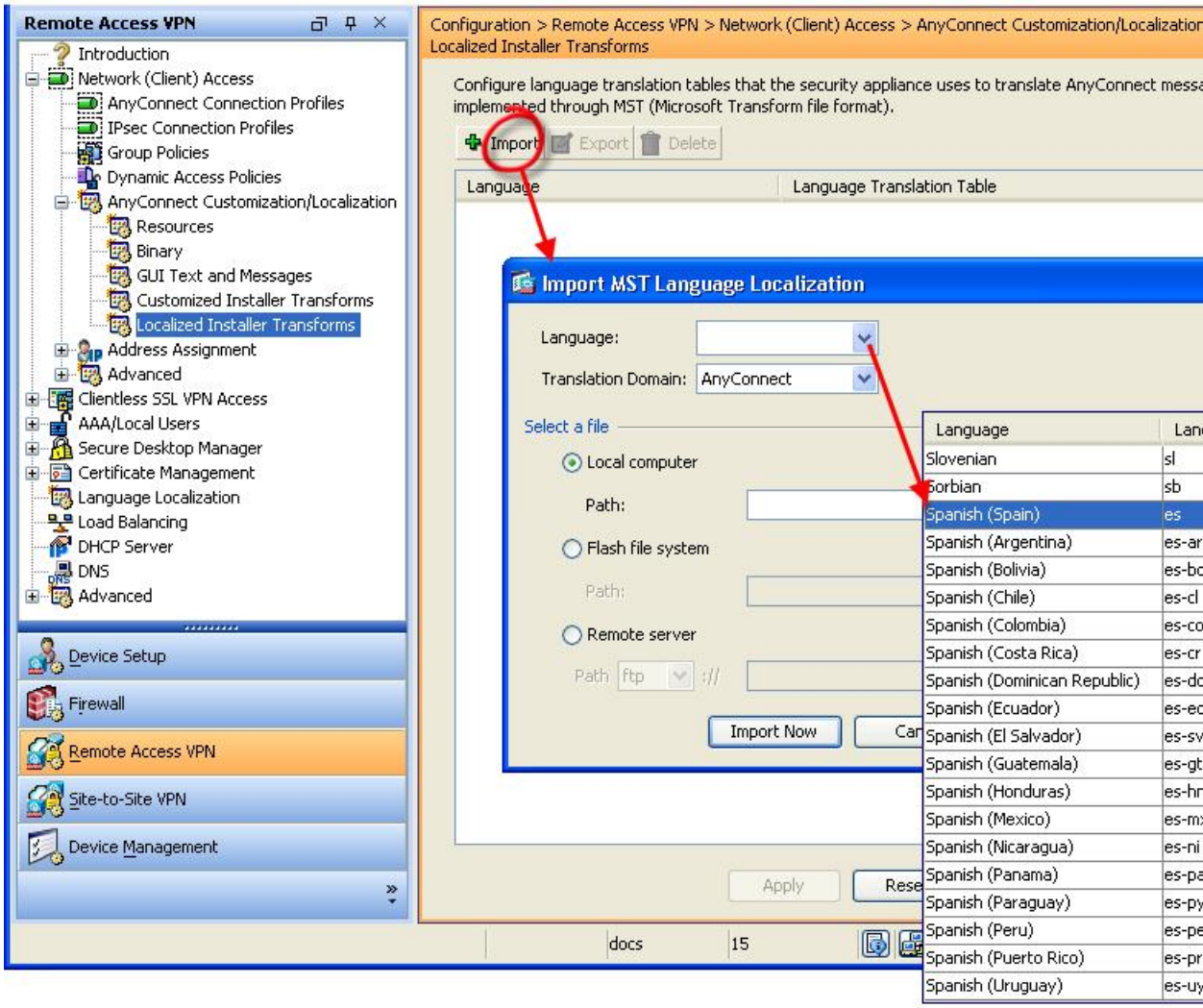
適応型セキュリティ アプライアンスへのローカライズされたインストーラ トランスフォームのインポート

ここでは、ASDM を使用してトランスフォームを ASA にインポートする方法について説明します。

手順

ステップ 1 ASDM で、**[設定（Configuration）] > [リモート アクセス VPN（Remote Access VPN）] > [ネットワーク（クライアント）アクセス（Network (Client) Access）] > [AnyConnect カスタマイゼーション/ローカリゼーション（AnyConnect Customization/LocalizationScript）] > [ローカライズされたインストーラ トランスフォーム（Localized Installer Transforms）]** に移動します。

ステップ 2 [インポート（Import）] をクリックします。[MST 言語ローカライズのインポート（Import MST Language Localization）] ウィンドウが表示されます。



ステップ 3 [言語（Language）] ドロップダウン リストをクリックして、このトランスフォーム用の言語（および業界で認められている略称）を選択します。手動で略称を入力する場合は、ブラウザおよびオペレーティング システムが認識できる略称を使用してください。

ステップ 4 [今すぐインポート（Import Now）] をクリックします。
テーブルが正常にインポートされたことを示すメッセージが表示されます。

ステップ 5 [適用（Apply）] をクリックして変更を保存します。

この手順では、言語にスペイン語（es）を指定しました。次の図は、AnyConnectの言語リストのスペイン語の新しいトランスフォームを示しています。

インストール動作の変更、macOS

制限事項

AnyConnect インストーラはローカライズできません。インストーラによって使用される文字列は、Mac インストーラ アプリケーションから取得され、AnyConnect インストーラからは取得されません。

ACTransforms.xml による macOS でのインストーラ動作のカスタマイズ

macOS については .pkg の動作をカスタマイズする標準の方法が提供されていないため、ACTransforms.xml を作成しました。この XML ファイルをインストーラとともに配置すると、インストーラはインストールを実行する前にこのファイルを読み取ります。ファイルをインストーラからの特定の相対パスに配置する必要があります。インストーラは、次の場所で変更が見つかるかどうかこの順序で検索します。

1. .pkg インストーラ ファイルと同じディレクトリにある「Profile」ディレクトリ内。
2. マウント済みディスク イメージ ボリュームのルートにある「Profile」ディレクトリ内。
3. マウント済みディスク イメージ ボリュームのルートにある「Profile」ディレクトリ内。

XML ファイルの形式は次のとおりです。

```
<ACTransforms>
<PropertyName1>Value</PropertyName1>
<PropertyName2>Value</PropertyName2>
</ACTransforms>
```

たとえば、macOS ACTransforms.xml プロパティは、Web セキュリティの「スタンドアロン」展開を作成する場合 DisableVPN です。ACTransforms.xml は、DMG ファイルの Profiles ディレクトリ内にあります。

カスタマー エクスペリエンス フィードバック モジュールの無効化

カスタマー エクスペリエンス フィードバック モジュールは、デフォルトで有効になっています。Mac OS X でこの機能を無効に切り替えるには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 ディスク ユーティリティまたは hdiutil を使用して、dmg パッケージを読み取り専用から読み取り/書き込みに変換します。次に例を示します。

```
hdiutil convert anyconnect-macosx-i386-ver-k9.dmg -format UDRW -o
anyconnect-macosx-i386-ver-k9-rw.dmg
```

ステップ 2 まだ設定されていない場合は、ACTransforms.xml を編集し、次の値を設定または追加します。

```
<DisableCustomerExperienceFeedback>false</DisableCustomerExperienceFeedback>
```

インストール動作の変更、Linux

ACTransform.xml による Linux でのインストーラ動作のカスタマイズ

Linux については .pkg の動作をカスタマイズする標準の方法が提供されていないため、ACTransforms.xml を作成しました。この XML ファイルをインストーラとともに配置すると、インストーラはインストールを実行する前にこのファイルを読み取ります。ファイルをインストーラからの特定の相対パスに配置する必要があります。インストーラは、次の場所で変更が見つかるかどうかこの順序で検索します。

- .pkg インストーラ ファイルと同じディレクトリにある「Profile」ディレクトリ内
- マウント済みディスク イメージ ボリュームのルートにある「Profile」ディレクトリ内
- .dmg ファイルと同じディレクトリにある「Profile」ディレクトリ内

事前展開パッケージ内の Profiles ディレクトリの XML ファイルである ACTransforms.xml の形式は次のとおりです。

```
<ACTransforms>
<PropertyName1>Value</PropertyName1>
<PropertyName2>Value</PropertyName2>
</ACTransforms>
```

DSCP の保存の有効化

Windows または OS X プラットフォームでは、DTLS 接続でのみ DiffServ コード ポイント（DSCP）を制御するカスタム属性を設定できます。DSCP の保存により、デバイスは遅延の影響を受けやすいトラフィックを優先することができます。ルータでは、これが設定されているかどうかが反映され、アウトバウンド接続品質の向上のために優先トラフィックがマークされます。

カスタム属性タイプは DSCPPreservationAllowed であり、有効な値は True または False です。

（注） デフォルトでは、AnyConnectはDSCPの保存を実行します（True）。無効にするには、ヘッドエンドでカスタム属性値を false に設定し、接続を再初期化します。

この機能は、ASDMの[設定（Configuration）]>[リモートアクセスVPN（Remote Access VPN）]>[ネットワーク(クライアント)アクセス（Network (Client) Access）]>[グループポリシー（Group Policies）]>[追加/編集（Add/Edit）]>[詳細（Advanced）]>[AnyConnectクライアント（AnyConnect Client）]>[カスタム属性（Custom Attributes）]で設定します。設定プロセスについては、適切なバージョンの『Cisco ASA Series VPN Configuration Guide』の「*Enable DSCP Preservation*」の項を参照してください。

パブリック DHCP サーバ ルートの設定

AnyConnect は、すべてのネットワークのトンネルが設定されているときにローカル DHCP トラフィックを暗号化せずに流せるようにするために、AnyConnect クライアント接続時にローカル DHCP サーバに特殊なルートを追加します。また、このルートでのデータ漏えいを防ぐため、AnyConnect はホスト マシンの LAN アダプタに暗黙的なフィルタを適用し、DHCP トラフィックを除く、そのルートのすべてのトラフィックをブロックします。外部インターフェイスに接続し、ローカル DHCP サーバを使用して接続が確立されると、そのサーバへの特殊なルートが作成され、非仮想アダプタではなく NIC をポイントします。同じサーバで他のサービス（WINS、DNSなど）が実行されている場合は、VPNセッションが確立されると、このルートがこれらのサービスを中断します。

Windowsでは、グループポリシーのカスタム属性を設定することで、パブリックなDHCPサーバ ルートの作成を制御できます。トンネル確立時のパブリック DHCP サーバ ルート作成を避けるために、no-dhcp-server-route カスタム属性が存在し、これを true に設定する必要があります。

この機能は、ASDMの[設定（Configuration）]>[リモートアクセスVPN（Remote Access VPN）]>[ネットワーク(クライアント)アクセス（Network (Client) Access）]>[グループポリシー（Group Policies）]>[追加/編集（Add/Edit）]>[詳細（Advanced）]>[AnyConnectクライアント（AnyConnect Client）]>[カスタム属性（Custom Attributes）]で設定します。設定プロセスについては、適切なリリースの『Cisco ASA Series VPN Configuration Guide』を参照してください。

AnyConnect GUI テキストとメッセージのカスタマイズ

適応型セキュリティ アプライアンス（ASA）は、変換テーブルを使用して AnyConnect に表示されるユーザ メッセージを翻訳します。変換テーブルとは、翻訳されたメッセージ テキストの文字列を含むテキスト ファイルです。ASDM またはトランスフォーム（Windows の場合）を使用して、既存のメッセージを編集したり、言語を追加したりできます。

ローカリゼーション用の次の Windows サンプル トランスフォームは、www.cisco.com で入手できます。

- Windows プラットフォームの事前展開パッケージ用言語ローカリゼーション トランスフォーム ファイル
- Windows プラットフォームの Web 展開パッケージ用言語ローカリゼーション トランスフォーム ファイル

Windows 用 AnyConnect パッケージ ファイルには、AnyConnect メッセージのデフォルトの英語の言語テンプレートが含まれます。AnyConnect パッケージを ASA にロードすると、ASA はこのファイルを自動的にインポートします。このテンプレートには、AnyConnect ソフトウェア内のメッセージ文字列の最新の変更が含まれています。これを使用すると、別の言語用の変換テーブルを新しく作成できます。または、www.cisco.com から入手可能な次の変換テーブルのいずれかをインポートすることができます（適応型セキュリティ アプライアンスへの変換テーブルのインポート （16 ページ）を参照）。

- 中国語（簡体字）
- 中国語（繁体字）
- チェコ語
- Dutch
- フランス語
- フランス語（カナダ）
- ドイツ語
- ハンガリー語
- イタリア語
- 日本語
- Korean
- ポーランド語
- ポルトガル語（ブラジル）
- ロシア語
- スペイン語（ラテンアメリカ）

次の項では、目的の言語が利用できない場合や、インポートした変換テーブルをさらにカスタマイズしたい場合などに、GUI テキストおよびメッセージを翻訳するための手順を説明します。

- AnyConnect のテキストとメッセージの追加または編集。メッセージ ファイルを追加または編集して、1 つ以上のメッセージ ID のメッセージ テキストを次の方法で変更して、メッセージ ファイルに変更を加えることができます。

- 開いたダイアログのテキストに変更内容を入力します。
- 開いたダイアログのテキストをテキストエディタにコピーし、変更を行い、そのテキストを元のダイアログに貼り付けます。

- 適応型セキュリティ アプライアンスへの変換テーブルのインポート（16ページ）。[ファイルに保存（Save to File）] をクリックして、そのファイルを編集し、ファイルを ASDM にもう一度インポートすることで、メッセージ ファイルをエクスポートできます。

ASA の変換テーブルを更新した後、クライアントをリスタートして別の接続に成功するまでは、更新したメッセージは適用されません。

（注） クライアントを ASA から展開せずに、Altiris Agent などの社内のソフトウェア展開システムを使用する場合は、Gettext などのカタログ ユーティリティを使用して、手動で AnyConnect 変換テーブル（anyconnect.po）を .mo ファイルに変換し、その .mo ファイルをクライアント コンピュータの適切なフォルダにインストールします。詳細については、「エンタープライズ展開用のメッセージ カタログの作成」（3-22 ページ）を参照してください。

注意事項と制約事項

AnyConnect は、すべての国際化の要件に完全には準拠していません。次の例外があります。

- 日付/時刻の形式は、ロケールの要件に従わない場合があります。
- 右から左への言語はサポートされません。
- 一部の文字列はハードコードされたフィールド長により UI で切り捨てられます。
- 次のようないくつかのハードコードされた英語文字列は、そのまま維持されます。
  - 更新時のステータス メッセージ。
  - 信頼できないサーバ メッセージ。
  - 遅延アップデート メッセージ。

AnyConnect のテキストとメッセージの追加または編集

英語変換テーブルを追加または編集し、1 つ以上のメッセージ ID のメッセージ テキストを変更することによって、AnyConnect GUI に表示される英語のメッセージを変更できます。メッセージ ファイルを開いたら、次の操作でそれを編集できます。

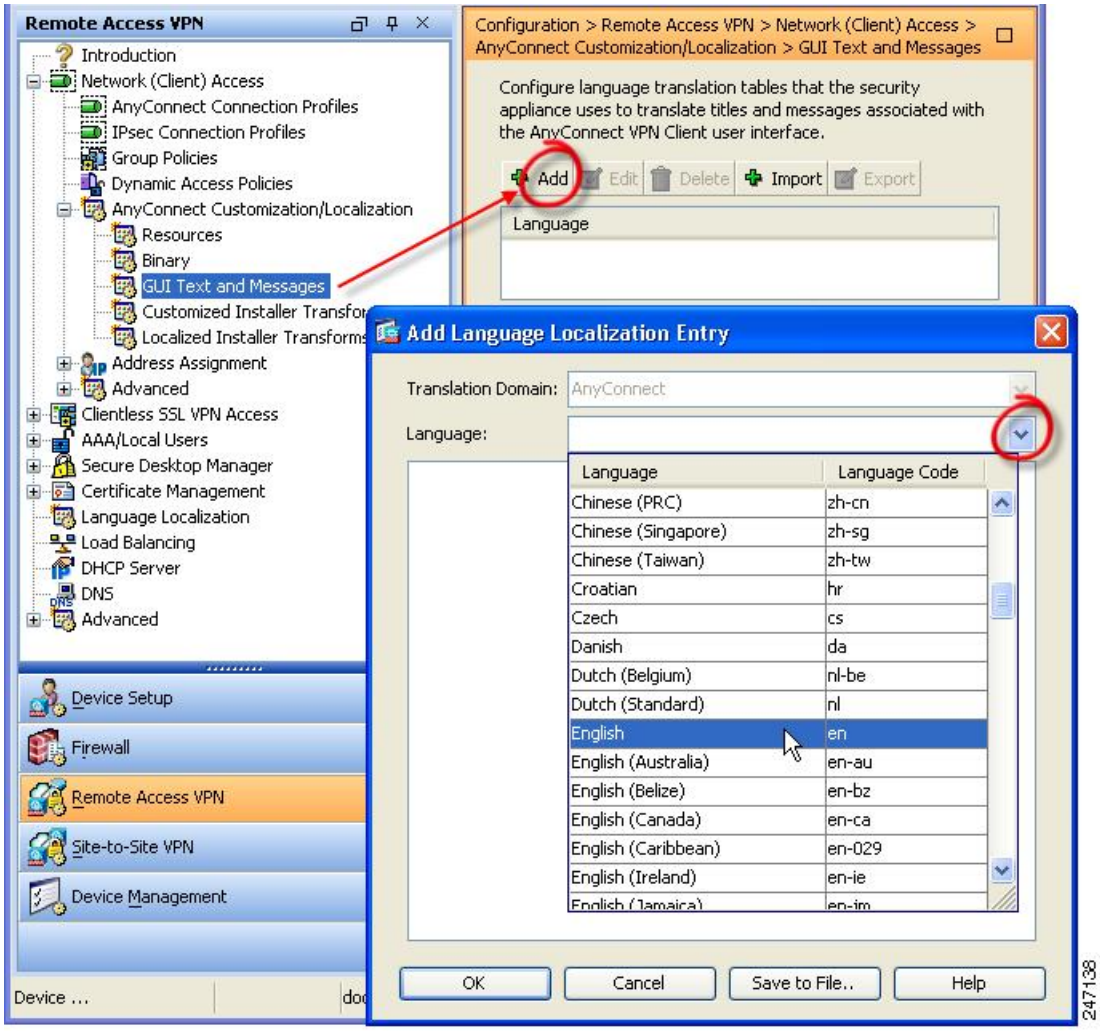
- 開いたダイアログのテキストに変更内容を入力します。
- 開いたダイアログのテキストをテキストエディタにコピーし、変更を行い、そのテキストを元のダイアログに貼り付けます。

- [ファイルに保存（Save to File）] をクリックしてメッセージ ファイルをエクスポートし、そのファイルを編集し、ファイルを ASDM にインポートします。

手順

ステップ 1 ASDM で、**[設定（Configuration）] > [リモート アクセス VPN（Remote Access VPN）] > [ネットワーク（クライアント）アクセス（Network (Client) Access）] > [AnyConnect カスタマイゼーション/ローカリゼーション（AnyConnect Customization/Localization）] > [GUI テキストおよびメッセージ（GUI Text and Messages）]** に移動します。

ステップ 2 [追加（Add）] をクリックします。[言語ローカリゼーション エントリの追加（Add Language Localization Entry）] ウィンドウが表示されます。

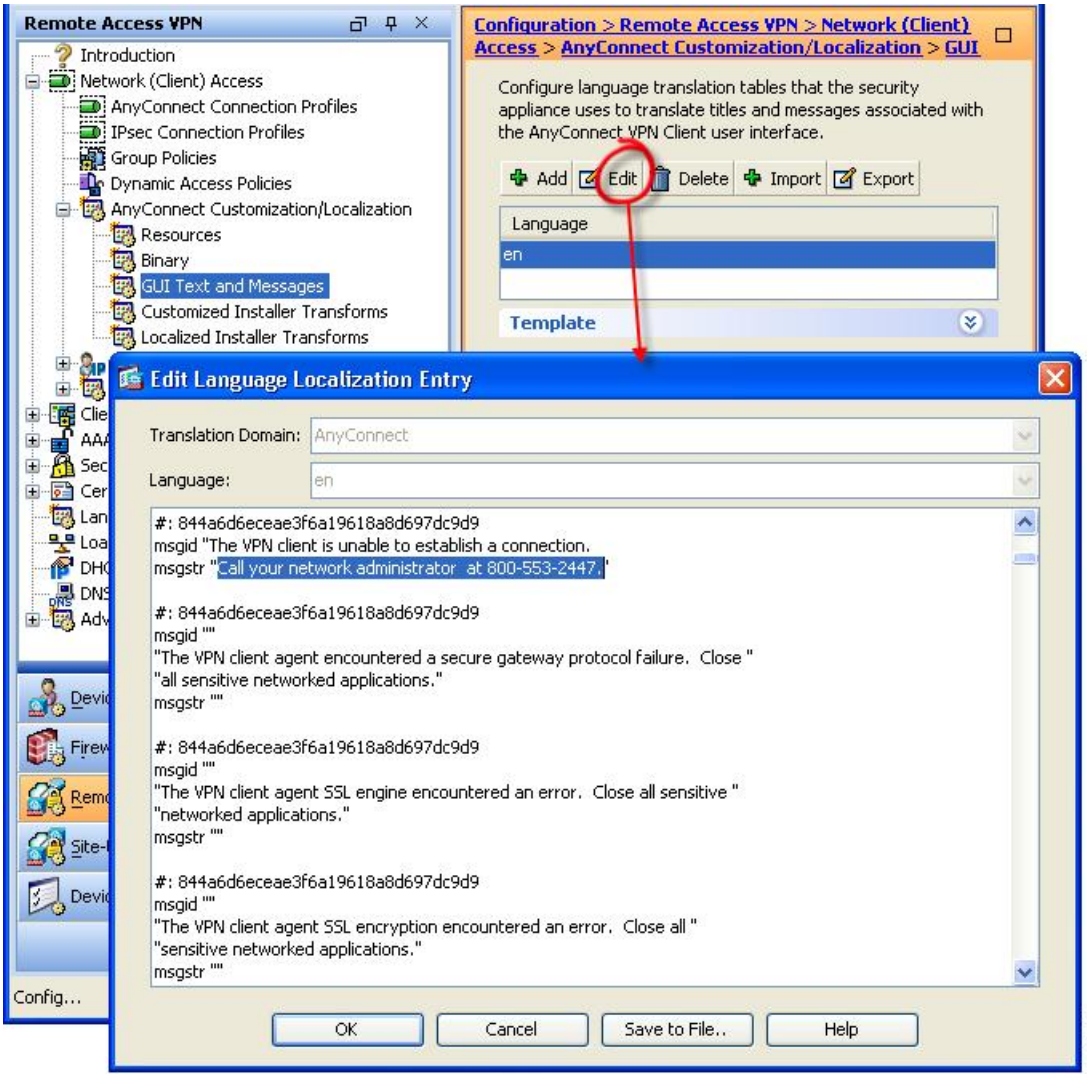


ステップ 3 [言語（Language）] ドロップ リストをクリックし、言語として [英語（en）（English (en)）] を指定します。英語の変換テーブルが、ペインの言語リストに表示されます。

ステップ 4 [編集（Edit）] をクリックして、メッセージの編集を開始します。

[言語のローカライズ エントリの編集（Edit Language Localization Entry）] ウィンドウが表示されます。msgid の引用符で囲まれたテキストは、クライアントに表示されるデフォルトの英語テキストです。変更してはいけません。msgstr の文字列には、msgid のデフォルト テキストを置き換えるために、クライアントで使用されるテキストが含まれます。msgstr の引用符の間に、使用するテキストを挿入します。

次の例では、「Call your network administrator at 800-553-2447」が挿入されています。



ステップ 5 [OK]、[適用（Apply）] の順にクリックし、変更内容を保存します。

適応型セキュリティ アプライアンスへの変換テーブルのインポート

手順

ステップ 1 www.cisco.com から目的の変換テーブルをダウンロードします。

ステップ 2 ASDM で、**[設定（Configuration）] > [リモート アクセス VPN（Remote Access VPN）] > [ネットワーク（クライアント）アクセス（Network (Client) Access）] > [AnyConnect カスタマイゼーション/ローカリゼーション（AnyConnect Customization/Localization）] > [GUI テキストおよびメッセージ（GUI Text and Messages）]** に移動します。

ステップ 3 [インポート（Import）] をクリックします。[言語ローカリゼーション エントリのインポート（Import Language Localization Entry）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ドロップダウン リストから適切な言語を選択します。

ステップ 5 変換テーブルのインポート元を指定します。

ステップ 6 [今すぐインポート（Import Now）] をクリックします。この変換テーブルが、この優先言語で AnyConnect クライアントに展開されます。ローカリゼーションは、AnyConnect がリスタートし、再接続した後に適用されます。

（注） 非モバイル デバイスで実行される AnyConnect の場合、Cisco Secure Desktop が使用されていない場合でも、ホストスキャンメッセージがローカライズされるためには、適応型セキュリティ アプライアンスに Cisco Secure Desktop 変換テーブルもインポートする必要があります。

エンタープライズ展開用のメッセージ カタログの作成

クライアントを ASA から展開せずに、Altiris Agent などの社内のソフトウェア展開システムを使用する場合は、Gettext などのユーティリティを使用して、手動で AnyConnect 変換テーブルをメッセージ カタログに変換できます。テーブルを .po ファイルから .mo ファイルに変換後、そのファイルをクライアント コンピュータ上の該当するフォルダに配置します。

（注） GetText と PoeEdit は、サードパーティ製ソフトウェア アプリケーションです。AnyConnect GUI をカスタマイズする推奨方法は、ASA からデフォルトの .mo ファイルを取得し、クライアントへの展開での必要に応じてそのファイルを編集する方法です。デフォルトの .mo ファイルを使用することによって、GetText や PoeEdit などのサードパーティ製アプリケーションに起因する潜在的な変換に関する問題を回避することができます。

Gettext は GNU プロジェクトのユーティリティであり、コマンド ウィンドウで実行できます。詳しくは、GNU の Web サイト（gnu.org）を参照してください。また、Poedit などの、Gettext を使用する GUI ベースのユーティリティを使用することもできます。このソフトウェアは

poedit.net から入手できます。Gettext を使用してメッセージ カタログを作成する手順は、次のとおりです。

AnyConnect メッセージ テンプレートのディレクトリ

AnyConnect メッセージ テンプレートは、各オペレーティング システムで、次に示すフォルダにあります。

（注） \l10n ディレクトリは、次に示す各ディレクトリ パスの一部です。このディレクトリ名のスペルは、小文字の l（「エル」）、1、0、小文字の n です。

- Windows の場合：`<DriveLetter>:\Program Data\Cisco\Cisco AnyConnect Secure Mobility Client\l10n\<LANGUAGE-CODE>\LC_MESSAGES`
- macOS および Linux の場合：`/opt/cisco/anyconnect/l10n/<LANGUAGE-CODE>/LC_MESSAGES`

手順

ステップ 1 Gettext ユーティリティを http://www.gnu.org/software/gettext/ からダウンロードし、管理用のコンピュータ（リモートのユーザ コンピュータ以外）にインストールします。

ステップ 2 AnyConnect がインストールされたコンピュータにある、AnyConnect メッセージ テンプレート AnyConnect.po のコピーを取得します。

ステップ 3 この AnyConnect.po ファイルを編集し（notepad.exe または任意のプレーン テキスト エディタを使用）、必要に応じて文字列を変更します。

ステップ 4 Gettext のメッセージ ファイル コンパイラを実行して、次のように .po ファイルから .mo ファイルを作成します。

msgfmt -o AnyConnect.mo AnyConnect.po

ステップ 5 ユーザのコンピュータ上の正しいメッセージ テンプレート ディレクトリに .mo ファイルのコピーを格納します。

ASA のカスタマイズした変換テーブルへの新しいメッセージの統合

新しいユーザ メッセージが、AnyConnect の一部のリリースに追加されています。これらの新しいメッセージの翻訳を有効にするために、新しいメッセージ文字列は、最新のクライアント イメージとともにパッケージ化された翻訳テンプレートに追加されています。以前のクライアントに含まれていたテンプレートに基づいて変換テーブルを作成した場合、リモート ユーザには新しいメッセージが自動的には表示されません。最新のテンプレートを既存の変換テーブルに統合し、変換テーブルに新しいメッセージを含める必要があります。

統合を実行するための無料のサードパーティ製ツールがあります。GNUプロジェクトのGettextユーティリティにはWindows版があり、コマンドウィンドウで実行できます。詳しくは、GNUの Web サイト（gnu.org）を参照してください。また、Poedit などの、Gettext を使用する GUI ベースのユーティリティを使用することもできます。このソフトウェアは poedit.net から入手できます。両方の手順を次に示します。

（注） この手順は、すでに最新の AnyConnect イメージ パッケージを ASA にロードしてあることが前提になっています。まだロードしていない場合は、テンプレートをエクスポートできません。

手順

ステップ 1 **[リモート アクセス VPN（Remote Access VPN）] > [言語のローカライズ（Language Localization）] > [テンプレート（Templates）]** を選択し、最新の AnyConnect 翻訳テンプレートをエクスポートします。`AnyConnect.pot` というファイル名で、テンプレートをエクスポートします。このファイル名にすると、msgmerge.exe プログラムからこのファイルがメッセージ カタログ テンプレートとして認識されます。

ステップ 2 AnyConnect テンプレートおよび変換テーブルを統合します。

Windows 版の Gettext ユーティリティを使用している場合は、コマンド プロンプト ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。このコマンドでは、次のように、AnyConnect 変換テーブル（.po）とテンプレート（.pot）が統合され、`AnyConnect_merged.po` ファイルが新しく作成されます。

```
msgmerge -o AnyConnect_merged.po AnyConnect.po AnyConnect.pot
```

このコマンドの実行結果の例を次に示します。

```
C:\Program Files\GnuWin32\bin> msgmerge -o AnyConnect_merged.po AnyConnect.po
AnyConnect.pot

..................................... done.
```

Poedit を使用している場合は、初めに AnyConnect.po ファイルを開きます。それには、[ファイル（File）] > [オープン（Open）] > <AnyConnect.po> の順に選択します。次に、POT ファイル <AnyConnect.pot> から、[カタログ（Catalog）] > [更新（Update）] の順に選択して、テンプレートと統合します。新しい文字列と使用されなくなった文字列の両方を示す、[更新概要（Update Summary）] ウィンドウが表示されます。ファイルを保存します。このファイルを次の手順でインポートします。

ステップ 3 統合した変換テーブルを、**[リモート アクセス VPN（Remote Access VPN）] > [言語のローカライズ（Language Localization）]** にインポートします。[インポート（Import）] をクリックし、言語を指定して、変換ドメインとして [AnyConnect] を選択します。インポートするファイルとして `AnyConnect_merged.po` を指定します。

クライアントでの Windows のデフォルト言語の選択

リモート ユーザが ASA に接続してクライアントをダウンロードすると、AnyConnect がコンピュータの優先言語を検出し、指定されたシステム ロケールを検出して適切な変換テーブルを適用します。

Windows で指定されているシステム ロケールを表示または変更するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 **[コントロール パネル]** > **[地域と言語]** ダイアログボックスに移動します。コントロール パネルをカテゴリ別に表示している場合は、**[時計、言語、および地域（Clock, Language, and Region）]** > **[表示言語の変更（Change display language）]** を選択します。

ステップ 2 言語/ロケール設定を指定し、これらの設定がすべてのユーザ アカウントのデフォルト設定として使用されることを指定します。

ステップ 3 Web Security を使用して展開している場合、Web Security エージェントをリスタートし、新しい翻訳内容を取得します。

（注） 場所が指定されていない場合、AnyConnect はデフォルトで言語のみが設定されます。たとえば、「fr-ca」ディレクトリが見つからないと、AnyConnect は「fr」ディレクトリを調べます。翻訳内容を表示するのに、表示言語、場所、またはキーボードを変更する必要はありません。

AnyConnect GUI のカスタム アイコンおよびロゴの作成

この項の表は、置き換えることができる AnyConnect ファイルをオペレーティング システムごとに示しています。表に含まれるイメージは、AnyConnect VPN クライアント、ネットワーク アクセス マネージャ、および Web セキュリティ モジュールにより使用されます。

制約事項

- カスタム コンポーネントのファイル名は、AnyConnect GUI で使用されるファイル名と一致している必要があります。これはオペレーティング システムによって異なり、macOS および Linux では大文字と小文字が区別されます。たとえば、Windows クライアント用の企業ロゴを置き換えるには、独自の企業ロゴを company_logo.png としてインポートする必要があります。別のファイル名でインポートすると、AnyConnect インストーラはそのコンポーネントを変更しません。ただし、独自の実行ファイルを展開して GUI をカスタマイズする場合は、その実行ファイルから任意のファイル名のリソース ファイルを呼び出すことができます。

- イメージをソース ファイルとして（たとえば、company_logo.bmp）インポートする場合、インポートしたイメージは、同じファイル名を使用して別のイメージを再インポートするまで、AnyConnect をカスタマイズします。たとえば、company_logo.bmp をカスタムイメージに置き換えて、このイメージを削除する場合、同じファイル名を使用して新しいイメージ（または元のシスコ ロゴイメージ）をインポートするまで、クライアントはこのイメージの表示を継続します。

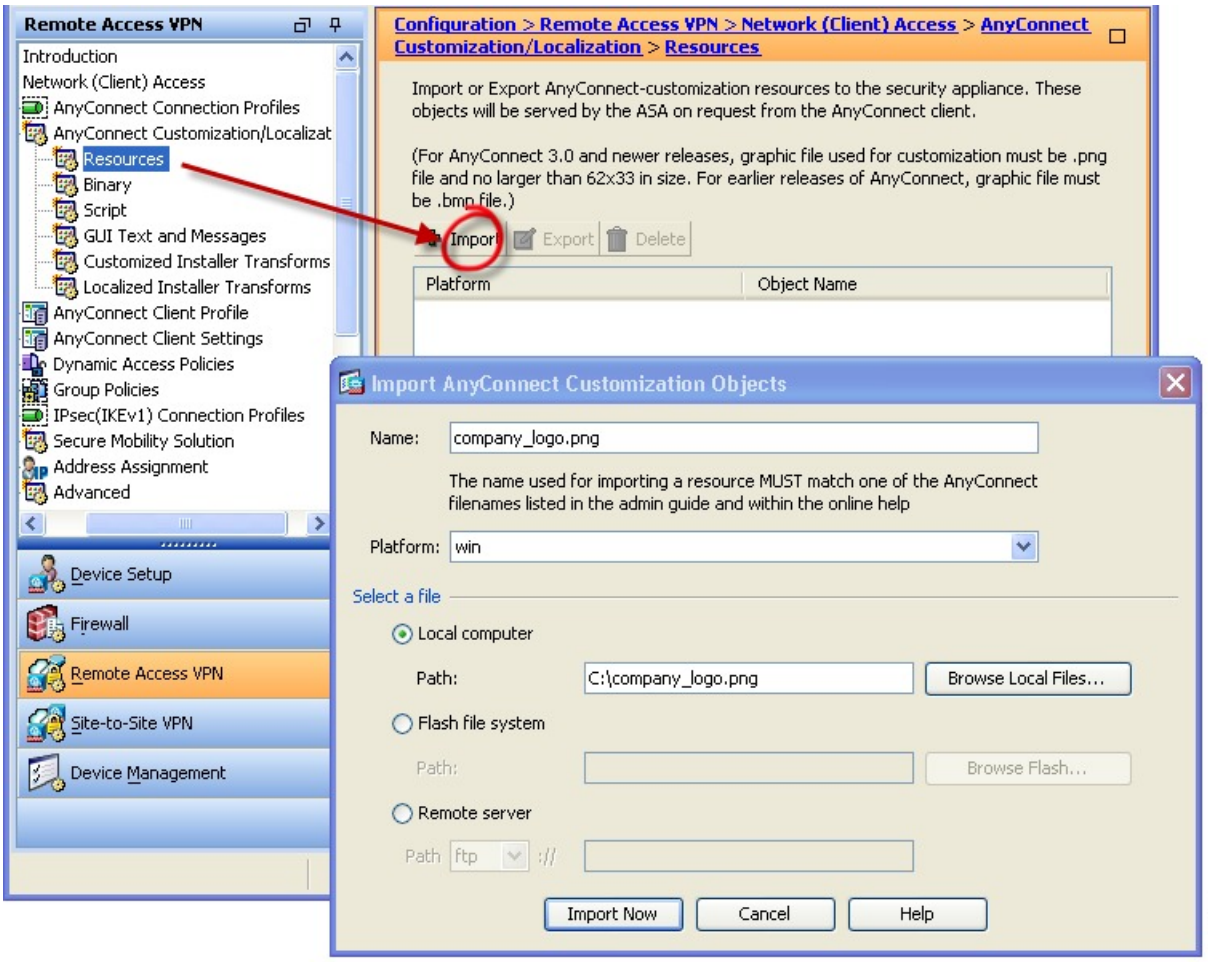
AnyConnect GUI コンポーネントの置き換え

独自のカスタム ファイルをセキュリティ アプライアンスにインポートし、その新しいファイルをクライアントに展開することによって、AnyConnect をカスタマイズできます。

手順

ステップ 1 ASDM で、**[設定（Configuration）] > [リモート アクセス VPN（Remote Access VPN）] > [ネットワーク（クライアント）アクセス（Network (Client) Access）] > [AnyConnect カスタマイゼーション/ローカリゼーション（AnyConnect Customization/LocalizationScript）] > [リソース（Resources）]** に移動します。

ステップ 2 [インポート（Import）] をクリックします。[AnyConnect カスタマイゼーション オブジェクトのインポート（Import AnyConnect Customization Objects）] ウィンドウが表示されます。



ステップ 3 インポートするファイルの名前を入力します。

ステップ 4 プラットフォームを選択し、インポートするファイルを指定します。[今すぐインポート（Import Now）] をクリックします。オブジェクトのリストにファイルが表示されます。

Windows 用 AnyConnect アイコンとロゴ

Windows 用のファイルはすべて次の場所に格納されています。

```
%PROGRAMFILES%\Cisco\Cisco AnyConnect Secure Mobility Client\res\
```

（注） %PROGRAMFILES% は、同じ名前の環境変数を指します。ほとんどの Windows インストレーションでは、`C:\Program Files` です。

Windows インストレーションでのファイル名および説明	イメージ サイズ（ピクセル、長さ X 高さ）およびタイプ
about.png [詳細（Advanced）] ダイアログの右上にある [バージョン情報（About）] ボタン。 サイズは調整できません。 	24 X 24 PNG
about_hover.png [詳細（Advanced）] ダイアログの右上にある [バージョン情報（About）] ボタン。 サイズは調整できません。 	24 X 24 PNG
app_logo.png 最大サイズは 128 x 128 です。ご使用のカスタム ファイルがこのサイズ以外の場合は、アプリケーションで 128 x 128 にサイズ変更されます。比率が異なる場合は、引き伸ばされます。 	128 X 128 PNG
attention.ico 注意または操作が必要な状態をユーザに通知するシステム トレイ アイコン。たとえば、ユーザ クレデンシャルについてのダイアログです。 サイズは調整できません。 	16 X 16 ICO

Windows インストレーションでのファイル名および説明	イメージ サイズ（ピクセル、長さ X 高さ）およびタイプ
company_logo.png トレイ フライアウトおよび[詳細（Advanced）]ダイアログの左上に表示される企業ロゴ。 最大サイズは 97 x 58 です。ご使用のカスタム ファイルがこのサイズ以外の場合は、アプリケーションで 97 x 58 にサイズ変更されます。比率が異なる場合は、引き伸ばされます。 	97 x 58（最大） PNG
company_logo_alt.png [バージョン情報（About）]ダイアログ右下に表示される企業ロゴ。 最大サイズは 97 x 58 です。ご使用のカスタム ファイルがこのサイズ以外の場合は、アプリケーションで 97 x 58 にサイズ変更されます。比率が異なる場合は、引き伸ばされます。 	97 x 58 PNG
cues_bg.jpg トレイ フライアウト、[詳細（Advanced）]ウィンドウ、および[バージョン情報（About）]ダイアログの背景イメージ。 イメージが引き伸ばされることはないため、過度に小さい置換イメージを使用すると、領域が黒くなります。 	1260 X 1024 JPEG

Windows インストレーションでのファイル名および説明	イメージ サイズ（ピクセル、長さ X 高さ）およびタイプ
error.ico 1 つ以上のコンポーネントで致命的な問題が発生していることをユーザに通知するシステム トレイ アイコン。 サイズは調整できません。 	16 X 16 ICO
neutral.ico クライアントのコンポーネントが正常に動作していることを示すシステム トレイ アイコン。 サイズは調整できません。 	16 X 16 ICO
transition_1.ico transition_2.ico および transition_3.ico と一緒に使用されるシステム トレイ アイコンで、1 つ以上のクライアント コンポーネントが状態遷移中であることを示します（たとえば、VPN に接続中、ネットワーク アクセス マネージャに接続中など）。3 つのアイコン ファイルが次々に表示されます。これは、左から右に移動する 1 つのアイコンのように見えます。 サイズは調整できません。 	16 X 16 ICO
transition_2.ico transition_1.ico および transition_3.ico と一緒に使用されるシステム トレイ アイコンで、1 つ以上のクライアント コンポーネントが状態遷移中であることを示します（たとえば、VPN に接続中、ネットワーク アクセス マネージャに接続中など）。3 つのアイコン ファイルが次々に表示されます。これは、左から右に移動する 1 つのアイコンのように見えます。 サイズは調整できません。 	16 X 16 ICO

Windows インストレーションでのファイル名および説明	イメージ サイズ（ピクセル、長さ X 高さ）およびタイプ
transition_3.ico transition_1.ico および transition_2.ico と一緒に使用されるシステム トレイ アイコンで、1 つ以上のクライアント コンポーネントが状態遷移中であることを示します（たとえば、VPN に接続中、ネットワーク アクセス マネージャに接続中など）。3 つのアイコン ファイルが次々に表示されます。これは、左から右に移動する 1 つのアイコンのように見えます。 サイズは調整できません。 	16 X 16 ICO
vpn_connected.ico VPN が接続中であることを示すシステム トレイアイコン。 サイズは調整できません。 	16 X 16 ICO

Linux 用 AnyConnect アイコンとロゴ

Linux 用のファイルはすべて次の場所に格納されています。

```
/opt/cisco/anyconnect/pixmaps/
```

次の表に、置換できるファイルと影響を受けるクライアント GUI エリアを示します。

Linux インストレーションでのファイル名および説明	イメージ サイズ（ピクセル、長さ X 高さ）およびタイプ
company-logo.png ユーザ インターフェイスの各タブに表示される企業ロゴ。 AnyConnect 3.0 以降の場合は、62 x 33 ピクセル以下の PNG イメージを使用してください。 	142 X 92 PNG

Linux インストレーションでのファイル名および説明	イメージ サイズ（ピクセル、長さ X 高さ）およびタイプ
cvc-about.png [バージョン情報（About）] タブに表示されるアイコン。 	16 X 16 PNG
cvc-connect.png [接続（Connect）] ボタンの隣、および [接続（Connection）] タブに表示されるアイコン。 	16 X 16 PNG
cvc-disconnect.png [接続解除（Disconnect）] ボタンの隣に表示されるアイコン。 	16 X 16 PNG
cvc-info.png [統計情報（Statistics）] タブに表示されるアイコン。 	16 X 16 PNG
systray_connected.png クライアントが接続中のときに表示されるトレイ アイコン。 	16 X 16 PNG
systray_notconnected.png クライアントが接続中でないときに表示されるトレイ アイコン。 	16 X 16 PNG
systray_disconnecting.png クライアントが接続解除の処理中のときに表示されるトレイ アイコン。 	16 X 16 PNG

Linux インストレーションでのファイル名および説明	イメージ サイズ（ピクセル、長さ X 高さ）およびタイプ
systray_quarantined.png クライアントが隔離中のときに表示されるトレイ アイコン。 	16 x 16 PNG
systray_reconnecting.png クライアントが再接続中のときに表示されるトレイ アイコン。 	16 X 16 PNG
vpnui48.png メイン プログラム アイコン。 	48 X 48 PNG

macOS 用 AnyConnect アイコンとロゴ

macOS 用のファイルはすべて次の場所に格納されています。

/Cisco AnyConnect Secure Mobility Client/Contents/Resources

次の表に、置換できるファイルと影響を受けるクライアント GUI エリアを示します。

macOS インストレーションでのファイル名および説明	イメージ サイズ（ピクセル数、長さ X 高さ）
bubble.png クライアントが接続または接続解除したときに表示される通知バブル。 	142 X 92 PNG
logo.png メイン画面の右上に表示されるロゴアイコン。 	50 X 33 PNG

macOS インストレーションでのファイル名および説明	イメージ サイズ（ピクセル数、長さ X 高さ）
vpngui.icns すべてのアイコン サービス（Dock、Sheets、Finder など）で使用される macOS アイコンのファイル形式。 	128 X 128 ICNS
macOS ステータス アイコン。 	16 X 16 PNG

AnyConnectクライアントのヘルプファイルの作成とアップロード

AnyConnect のユーザにヘルプを提供するために、サイトに関する手順を含むヘルプ ファイルを作成し、適応型セキュリティ アプライアンスにロードします。ユーザが AnyConnect に接続すると、AnyConnect がヘルプ ファイルをダウンロードし、AnyConnect ユーザ インターフェイス上にヘルプ アイコンを表示します。ユーザがヘルプ アイコンをクリックすると、ブラウザにヘルプ ファイルが開きます。PDF および HTML ファイルがサポートされています。

手順

ステップ 1 `help_AnyConnect.html` という名前の HTML ファイルを作成します。

ステップ 2 ASDM で、**[設定（Configuration）] > [リモート アクセス VPN（Remote Access VPN）] > [ネットワーク（クライアント）アクセス（Network (Client) Access）] > [AnyConnect カスタマイゼーション/ローカリゼーション（AnyConnect Customization/LocalizationScript）] > [バイナリ（Binary）]** に移動します。

ステップ 3 **help_AnyConnect.xxx** ファイルをインポートします。サポートされる形式は、PDF、HTML、HTM、および MHT です。

ステップ 4 PC 上で AnyConnect を起動し、適応型セキュリティ アプライアンスに接続します。ヘルプ ファイルがクライアント PC にダウンロードされます。
ヘルプ アイコンが自動的に UI に追加されたことがわかるはずです。

ステップ 5 ヘルプ アイコンをクリックすると、ヘルプ ファイルがブラウザに表示されます。

ヘルプ アイコンが表示されない場合は、ヘルプのディレクトリを確認し、AnyConnect のダウンローダがヘルプ ファイルを取得できたかどうかを確認します。

ファイル名の「help_」の部分はダウンローダにより削除されるので、ご使用のオペレーティング システムに応じて、次のいずれかのディレクトリの中に AnyConnect.html が保存されているはずです。

- Windows：`C:\ProgramData\Cisco\Cisco AnyConnect Secure Mobility Client\Help`
- macOS：`/opt/cisco/anyconnect/help`

スクリプトの作成および展開

AnyConnect では、次のイベントが発生したときに、スクリプトをダウンロードして実行できます。

- セキュリティ アプライアンスで新しいクライアント VPN セッションが確立された。このイベントによって起動するスクリプトを *OnConnect* スクリプトと呼びます。スクリプトには、このファイル名プレフィックスが必要です。
- セキュリティ アプライアンスでクライアント VPN セッションが切断された。このイベントによって起動するスクリプトを *OnDisconnect* スクリプトと呼びます。スクリプトには、このファイル名プレフィックスが必要です。

Trusted Network Detection によって開始された新しいクライアント VPN セッションが確立すると、OnConnect スクリプトがトリガーされます（スクリプトを実行するための要件が満たされている場合）が、ネットワーク中断後に永続 VPN セッションを再接続しても、OnConnect スクリプトはトリガーされません。

この機能には次のような使用例があります。

- VPN 接続時にグループ ポリシーを更新する。
- VPN 接続時にネットワーク ドライブをマッピングし、接続解除後にマッピングを解除する。
- VPN 接続時にサービスにログインし、接続解除後にログオフする。

AnyConnect は、WebLaunch の起動中およびスタンドアロン起動中でのスクリプトの起動をサポートします。

ここでの説明は、スクリプトの作成方法と、ターゲット エンドポイントのコマンド ラインからスクリプトを実行し、テストする方法についての知識があることを前提としています。

（注） AnyConnect のソフトウェア ダウンロード サイトでは、サンプル スクリプトがいくつか提供されています。これらを確認する場合は、単なるサンプルであることに留意してください。これらのサンプル スクリプトは、スクリプトを実行するために必要なローカル コンピュータの要件を満たしていない場合があります。また、ご使用のネットワークおよびユーザのニーズに応じてカスタマイズしてからでないと使用できません。シスコでは、サンプル スクリプトまたはユーザ作成スクリプトはサポートしていません。

スクリプトの要件と制限

次のスクリプトの要件と制限事項に留意してください。

- サポートされるスクリプトの数：AnyConnect は、1 つの OnConnect スクリプトおよび 1 つの OnDisconnect スクリプトのみを実行します。ただし、これらのスクリプトが別のスクリプトを起動する場合があります。
- ファイル形式：AnyConnect は、ファイル名で OnConnect スクリプトおよび onDisconnect スクリプトを識別します。また、ファイル拡張子に関係なく、OnConnect または OnDisconnect で始まるファイルを検索します。照合プレフィックスに関連する最初のスクリプトが実行されます。解釈されたスクリプト（VBS、Perl、Bash など）または実行可能ファイルを認識します。
- スクリプト言語：クライアントでは、スクリプトを特定の言語で作成する必要はありません。ただし、スクリプトを実行可能なアプリケーションが、クライアント コンピュータにインストールされている必要があります。クライアントでスクリプトを起動するためには、このスクリプトがコマンド ラインから実行可能であることが必要です。
- Windows セキュリティ環境によるスクリプトの制限：Microsoft Windows では、AnyConnect はユーザが Windows にログインし、VPN セッションを確立した後でのみスクリプトを起動できます。そのため、ユーザのセキュリティ環境に伴う制限が、これらのスクリプトに適用されます。スクリプトが実行できる機能は、ユーザが起動権限を持つ機能に限られます。AnyConnect は、Windows でスクリプトを実行中は CMD ウィンドウを非表示にします。したがって、テストの目的で、.bat ファイル内のメッセージを表示するスクリプトを実行しても機能しません。
- スクリプトの有効化：デフォルトでは、クライアントはスクリプトを起動しません。スクリプトを有効にするには、AnyConnect プロファイルの EnableScripting パラメータを使用します。これにより、クライアントではスクリプトが存在する必要がなくなります。
- クライアント GUI 終了：クライアント GUI を終了しても、必ずしも VPN セッションは終了しません。OnDisconnect スクリプトは、セッションが終了した後で実行されます。
- 64 ビット Windows でのスクリプトの実行：AnyConnect クライアントは、32 ビット アプリケーションです。64 ビット Windows バージョンで実行すると、cmd.exe の 32 ビット バージョンが使用されます。

  32 ビットの cmd.exe では、64 ビットの cmd.exe でサポートされているコマンドの一部が欠けているため、一部のスクリプトについては、サポートされていないコマンドの実行を試

行したときにスクリプトの実行が停止したり、一部実行されてから停止したりする場合があります。たとえば、64 ビットの cmd.exe でサポートされている msg コマンドは、32 ビット バージョンの Windows 7（%WINDIR%\SysWOW64 に含まれる）では理解されない場合があります。

そのため、スクリプトを作成する場合は、32 ビットの cmd.exe でサポートされているコマンドを使用してください。

スクリプトの作成、テスト、および展開

対象のオペレーティング システムでスクリプトを作成およびテストします。ネイティブ オペレーティング システムのコマンド ラインからスクリプトを正しく実行できない場合は、AnyConnect でも正しく実行できません。

手順

ステップ 1 スクリプトを作成およびテストします。

ステップ 2 スクリプトの展開方法を選択します。

- ASDM を使用して、スクリプトをバイナリ ファイルとして ASA にインポートします。

  [ネットワーク（クライアント）アクセス（Network (Client) Access）] > [AnyConnect カスタマイゼーション/ローカリゼーション（AnyConnect Customization/Localization）] > [スクリプト（Script）] に進みます。

  ASDM バージョン 6.3 以降を使用している場合、ASA では、ファイルをスクリプトとして識別できるように、プレフィックス scripts_ とプレフィックス OnConnect または OnDisconnect がユーザのファイル名に追加されます。クライアントが接続すると、セキュリティ アプライアンスは、リモート コンピュータ上の適切なターゲット ディレクトリにスクリプトをダウンロードし、scripts_ プレフィックスを削除し、OnConnect プレフィックスまたは OnDisconnect プレフィックスを残します。たとえば、myscript.bat スクリプトをインポートする場合、スクリプトは、セキュリティ アプライアンス上では scripts_OnConnect_myscript.bat となります。リモート コンピュータ上では、スクリプトは OnConnect_myscript.bat となります。

  6.3 よりも前の ASDM バージョンを使用している場合には、次のプレフィックスでスクリプトをインポートする必要があります。

  - scripts_OnConnect
  - scripts_OnDisconnect

    スクリプトの実行の信頼性を確保するために、すべての ASA で同じスクリプトを展開するように設定します。スクリプトを修正または置換する場合は、旧バージョンと同じ名前を使用し、ユーザが接続する可能性のあるすべての ASA に置換スクリプトを割り当てます。ユーザが接続すると、新しいスクリプトにより同じ名前のスクリプトが上書きされます。

- 社内のソフトウェア展開システムを使用して、VPNエンドポイントにスクリプトを手動で展開します。

  この方式を使用する場合は、次のスクリプト ファイル名プレフィックスを使用します。

  - OnConnect
  - OnDisconnect

  次のディレクトリにスクリプトをインストールします。

  表 *1*: スクリプトの所定の場所

OS	[ディレクトリ（Directory）]
Microsoft Windows	%ALLUSERSPROFILE%\Cisco\Cisco AnyConnect Secure Mobility Client\Script
Linux （Linux では、User、Group、Other にファイルの実行権限を割り当てます）	/opt/cisco/anyconnect
macOS	/opt/cisco/anyconnect/script

スクリプトに関する AnyConnect プロファイルの設定

手順

ステップ 1 VPN プロファイル エディタを開き、ナビゲーション ペインから [プリファレンス（Part 2）（Preferences (Part 2)）] を選択します。

ステップ 2 [スクリプトの有効化（Enable Scripting）] をオンにします。クライアントでは、VPN 接続の接続時または接続解除時にスクリプトが起動します。

ステップ 3 [ユーザ制御可（User Controllable）] をオンにして、OnConnect スクリプトおよび OnDisconnect スクリプトの実行をユーザが有効または無効にすることができるようにします。

ステップ 4 [次のイベント時にスクリプトを終了する（Terminate Script On Next Event）] をオンにして、スクリプト処理可能な別のイベントへの遷移が発生した場合に、実行中のスクリプトプロセスをクライアントが終了できるようにします。たとえば、VPNセッションが終了すると、クライアントでは実行中の OnConnect スクリプトが終了し、AnyConnect で新しい VPN セッションが開始すると、実行中の OnDisconnect スクリプトが終了します。Microsoft Windows 上のクライアントでは OnConnect スクリプトまたは OnDisconnect スクリプトによって起動した任意のスクリプト、およびその従属スクリプトもすべて終了します。macOS および Linux 上のクライアントでは、OnConnect スクリプトまたは OnDisconnect スクリプトのみ終了し、子スクリプトは終了しません。

ステップ 5 [Post SBL OnConnect スクリプトを有効にする（Enable Post SBL On Connect Script）] をオンにして（デフォルトでオン）、SBL で VPN セッションが確立された場合にクライアントにより OnConnect スクリプトが（存在すれば）起動するようにします。

（注） 必ずクライアント プロファイルを ASA のグループ ポリシーに追加し、それを VPN エンドポイントにダウンロードしてください。

スクリプトのトラブルシューティング

スクリプトの実行に失敗した場合は、次のようにして問題を解決してください。

手順

ステップ 1 スクリプトに、`OnConnect` または `OnDisconnect` のプレフィックス名が付いていることを確認します。各オペレーティング システムで必要なスクリプト ディレクトリについては、「スクリプトの作成、テスト、および展開」を参照してください。

ステップ 2 スクリプトをコマンド ラインから実行してみます。コマンド ラインから実行できないスクリプトは、クライアントでも実行できません。コマンドラインでスクリプトの実行に失敗する場合は、スクリプトを実行するアプリケーションがインストールされていることを確認し、そのオペレーティング システムでスクリプトを作成し直してください。

ステップ 3 VPN エンドポイントのスクリプト ディレクトリに、OnConnect スクリプトと OnDisconnect スクリプトがそれぞれ 1 つのみ存在していることを確認してください。クライアントが ASA から OnConnect スクリプトをダウンロードして、別の ASA 用の異なるファイル名サフィックスを持つ 2 番目の OnConnect スクリプトをダウンロードした場合、クライアントは意図されたスクリプトを実行しない可能性があります。スクリプト パスに複数の OnConnect スクリプトまたは OnDisconnect スクリプトが含まれており、かつスクリプトの展開に ASA を使用している場合は、スクリプト ディレクトリ内のファイルを削除し、VPN セッションを再確立します。スクリプト パスに複数の OnConnect スクリプトまたは OnDisconnect スクリプトが含まれており、かつ手動展開を使用している場合は、不要なスクリプトを削除し、VPNセッションを再確立します。

ステップ 4 オペレーティング システムが Linux の場合は、スクリプト ファイルに実行権限が設定されていることを確認します。

ステップ 5 クライアント プロファイルでスクリプトが有効になっていることを確認します。

AnyConnect API によるカスタム アプリケーションの作成と展開

Windows、Linux、macOS のコンピュータでは、AnyConnect API を使用して独自の実行可能なユーザ インターフェイス（UI）を開発できます。AnyConnect バイナリ ファイルを置き換えることで UI を展開します。

次の表に、オペレーティング システムごとのクライアント実行可能ファイルのファイル名を示します。

クライアント OS	クライアント GUI ファイル	クライアント CLI ファイル
Windows	vpnui.exe	vpncli.exe
Linux	vpnui	vpn
macOS	ASA 展開ではサポートされません。ただし、Altiris Agent などの他の手段によって、クライアント GUI を置き換える Mac 用の実行ファイルを展開できます。	vpn

実行可能ファイルは、ASA にインポートされたリソース ファイル（ロゴ イメージなど）を呼び出すことができます。独自の実行可能ファイルを展開する場合、リソース ファイルに任意のファイル名を使用できます。

制約事項

- 適応型セキュリティ アプライアンスから最新の AnyConnect ソフトウェアを展開することはできません。適応型セキュリティ アプライアンスに AnyConnect パッケージの最新バージョンを配置すると、AnyConnect クライアントはその更新をダウンロードして、カスタム UI を置き換えます。カスタム クライアントおよび関連する AnyConnect ソフトウェアの配布を管理する必要があります。ASDM でバイナリをアップロードして AnyConnect クライアントを置き換えることができる場合でも、この展開機能は、カスタム アプリケーションを使用しているときにはサポートされません。
- Web セキュリティまたはネットワーク アクセス マネージャを展開する場合は、Cisco AnyConnect Secure Mobility Client GUI を使用します。
- Start Before Logon はサポートされていません。

AnyConnect CLI コマンドの使用

Cisco AnyConnect VPN Client には、グラフィカル ユーザ インターフェイスを使用せずにクライアント コマンドを入力することを希望するユーザ向けに、コマンドライン インターフェイス（CLI）があります。ここでは、CLI コマンド プロンプトの起動方法、および CLI を介して使用できるコマンドについて説明します。

- クライアント CLI プロンプトの起動 （35 ページ）
- クライアント CLI コマンドの使用 （35 ページ）
- ASA によるセッション終了時に Windows ポップアップ メッセージが表示されないようにする （37 ページ）

クライアント CLI プロンプトの起動

CLI コマンド プロンプトを起動するには、以下の手順を実行します。

- （Windows）Windows フォルダ C:/Program Files/Cisco/Cisco AnyConnect Secure Mobility Client にある *vpncli.exe* ファイルを見つけます。vpncli.exe をダブル クリックします。
- （Linux および macOS）/opt/cisco/anyconnect/bin/ フォルダにある *vpn* ファイルを見つけます。*vpn* ファイルを実行します。

クライアント CLI コマンドの使用

インタラクティブ モードで CLI を実行する場合、独自のプロンプトが表示されます。コマンド ラインを使用することもできます。

- connect *IP address* または *alias*：クライアントは特定の ASA との接続を確立します。
- disconnect：クライアントは以前に確立した接続を閉じます。
- stats：確立された接続に関する統計情報を表示します。
- quit：CLI インタラクティブ モードを終了します。
- exit：CLI インタラクティブ モードを終了します。

次の例は、ユーザがコマンド ラインから接続を確立し、終了する例です。

Windows

```
connect 209.165.200.224
```

アドレスが 209.165.200.224 のセキュリティ アプライアンスへの接続を確立します。要求されたホストにアクセスすると、AnyConnect クライアントに、ユーザが属するグループが表示され、ユーザ名とパスワードが要求されます。オプションのバナーを表示するよう指定されてい

る場合、ユーザはバナーに応答する必要があります。デフォルトの応答は、接続の試行を終了する「n」です。次に例を示します。

```
VPN > connect 209.165.200.224
>>contacting host (209.165.200.224) for login information...
>>Please enter your username and password.
Group: testgroup
Username: testuser
Password: ********
>>notice: Please respond to banner.
VPN>
STOP! Please read. Scheduled system maintenance will occur tonight from 1:00-2:00 AM for
 one hour.
The system will not be available during that time.

accept? [y/n] y
>> notice: Authentication succeeded. Checking for updates...
>> state: Connecting
>> notice: Establishing connection to 209.165.200.224.
>> State: Connected
>> notice: VPN session established.
VPN>
```

stats

現在の接続の統計情報を表示します。以下に例を示します。

```
VPN > stats
[Tunnel information]

Time Connected: 01:17:33
Client Address: 192.168.23.45
Server Address: 209.165.200.224

[Tunnel Details]

Tunneling Mode: All traffic
Protocol: DTLS
Protocol Cipher: RSA_AES_256_SHA1
Protocol Compression: None

[Data Transfer]

Bytes (sent/received): 1950410/23861719
Packets (sent/received): 18346/28851
Bypassed (outbound/inbound): 0/0
Discarded (outbound/inbound): 0/0

[Secure Routes]

Network Subnet
0.0.0.0 0.0.0.0
VPN>
```

disconnect

以前に確立した接続を閉じます。以下に例を示します。

```
VPN > disconnect
>> state: Disconnecting
>> state: Disconnected
>> notice: VPN session ended.
VPN>
```

quit または exit

いずれのコマンドも CLI のインタラクティブ モードを終了します。以下に例を示します。

```
quit
goodbye
>>state: Disconnected
```

Linux または Mac OS X

```
/opt/cisco/anyconnect/bin/vpn connect 1.2.3.4
```

アドレスが 1.2.3.4 の ASA への接続を確立します。

```
/opt/cisco/anyconnect/bin/vpn connect some_asa_alias
```

プロファイルを読み込み、エイリアス *some_asa_alias* を検索してアドレスを探し、ASA への接続を確立します。

```
/opt/cisco/anyconnect/bin/vpn stats
```

vpn 接続に関する統計情報を表示します。

```
/opt/cisco/anyconnect/bin/vpn disconnect
```

存在する場合、VPN セッションを切断します。

ASA によるセッション終了時に Windows ポップアップ メッセージが表示されないようにする

ASA からセッション リセットを発行することによって AnyConnect セッションを終了すると、エンド ユーザに次の Windows ポップアップ メッセージが表示されます。

```
The secure gateway has terminated the vpn connection. The following message was received
 for the gateway: Administrator Reset
```

このメッセージを表示させたくないと思う場合があるかもしれません（たとえば、CLI コマンドを使用して VPN トンネルを開始するときなど）。クライアントが接続した後に、クライアント CLI を再起動することによって、このメッセージを表示さないようにすることができます。次に、この処理を行った場合の CLI 出力例を示します。

```
C:/Program Files (x86)\Cisco\Cisco AnyConnect Secure Mobility Client>vpncli
Cisco AnyConnect Secure Mobility Client (version 4.x).
Copyright (c) 2016 Cisco Systems, Inc.
All Rights Reserved.
>> state: Connected
>> state: Connected
>> notice: Connected to asa.cisco.com.
>> notice: Connected to asa.cisco.com.
>> registered with local VPN subsystem.
>> state: Connected
>> notice: Connected to asa.cisco.com.
>> state: Disconnecting
>> notice: Disconnect in progress, please wait...
>> state: Disconnected
>> notice: On a trusted network.
>> error: The secure gateway has terminated the VPN connection.
The following message was received from the secure gateway: Administrator Reset
VPN>
```

または、次の場所にあるエンドポイント デバイスでは、Windows レジストリに SuppressModalDialogs という名前の 32 ビットの倍精度値を作成できます。クライアントは名前の有無を検査しますが、値は無視します。

- 64 ビット Windows：

  HKEY_LOCAL_MACHINE]SOFTWARE\Wow6432Node\Cisco\

  Cisco AnyConnect Secure Mobility Client

- 32 ビット Windows：

  HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco]Cisco AnyConnect Secure Mobility Client

ISE 展開のための AnyConnect カスタマイズおよびローカリゼーションの準備

AnyConnect ローカリゼーション バンドルの準備

AnyConnect ローカリゼーション バンドルは、AnyConnect をローカライズするために使用される変換テーブル ファイルとインストーラ トランスフォーム ファイルを含む zip ファイルです。この zip ファイルは、ISE からユーザに AnyConnect を展開するために使用される ISE AnyConnect リソースの一部です。この zip ファイルの内容は、次の手順に従って AnyConnect 展開でサポートする言語によって定義されます。

始める前に

ISE は、AnyConnect ローカリゼーション バンドル内のコンパイル済みのバイナリ変換テーブルを必要とします。gettext には、編集で使用されるテキスト .po とランタイムに使用されるコンパイル済みのバイナリ .mo の 2 つのファイル形式があります。コンパイルは、gettext ツールの msgfmt を使用して行われます。gettext ユーティリティを http://www.gnu.org/software/gettext/ からダウンロードし、管理に使用するローカル コンピュータ（リモートのユーザ コンピュータ以外）にインストールします。

手順

ステップ 1 AnyConnect 展開で使用する変換テーブル ファイルを取得して準備します。

a) www.cisco.com の Cisco AnyConnect Secure Mobility Client ソフトウェア ダウンロード ページから `AnyConnect-translations-(date).zip` ファイルをダウンロードしてこれを開きます。

この zip ファイルには、シスコによって提供されるすべての言語変換用 *.po ファイルが含まれます。

b) （任意） 現在の環境用にカスタマイズまたは作成した変換テーブル ファイル（*.po ファイル）があれば、それを特定します。

c) gettext メッセージ ファイル コンパイラを実行して、使用している各 *.po ファイルから *.mo ファイルを作成します。

```
msgfmt -o AnyConnect.mo AnyConnect.po
```

ステップ 2 AnyConnect 展開で使用する変換テーブルを収集します。

a) ローカル コンピュータの作業領域に l10n という名前のディレクトリを作成します。

b) l10n ディレクトリの下に、含める各言語のディレクトリを作成します。ディレクトリの名前は各言語コードです。

たとえば、フランス語（カナダ）の場合は fr-ch です。

c) 含めるコンパイル済み変換テーブル ファイルを、適切な名前のディレクトリに配置します。

コンパイル済み変換テーブルに *.po ファイルを含めないでください。*.mo ファイルのみをこのファイルに含める必要があります。

ディレクトリ構造は、フランス語（カナダ）、ヘブライ語、および日本語の変換テーブルを含む次のディレクトリ構造と同様になります。

```
l10n\fr-ch\AnyConnect.mo
    \he\AnyConnect.mo
    \ja\AnyConnect.mo
```

ステップ 3 （Windows の場合のみ）AnyConnect 展開で使用する言語ローカリゼーション変換ファイルを取得して準備します。

a) www.cisco.com の Cisco AnyConnect Secure Mobility Client ソフトウェア ダウンロード ページから、展開に適用する言語ローカリゼーション変換ファイルを含む zip ファイルをダウンロードしてこれを開きます。

zip ファイルの名前は anyconnect-win-*(version)*-webdeploy-k9-lang.zip または anyconnect-win-*(version)*-gina-webdeploy-k9-lang.zip です。

（注） 言語ローカリゼーション ファイルのバージョンは、現在の環境で使用する AnyConnect のバージョンに一致する必要があります。AnyConnect を新しいバージョンにアップグレードする場合は、ローカリゼーション バンドルで使用される言語ローカリゼーション ファイルも同じバージョンにアップグレードする必要があります。

b) 現在の環境用にカスタマイズまたは作成した言語ローカリゼーション変換ファイルがあれば、それを特定します。

ステップ 4 （Windows の場合のみ）AnyConnect 展開で使用する言語ローカリゼーション ファイルを収集します。

a) ローカル コンピュータの同じ作業領域に mst いう名前のディレクトリを作成します。

b) mst ディレクトリの下に、含める各言語のディレクトリを作成します。ディレクトリの名前は各言語コードです。

たとえば、フランス語（カナダ）の場合は fr-ch です。

c) 含める言語ローカリゼーション ファイルを、適切な名前のディレクトリに配置します。ディレクトリ構造は、次のようになります。

```
l10n\fr-ch\AnyConnect.mo
    \he\AnyConnect.mo
    \ja\AnyConnect.mo
mst\fr-ch\AnyConnect_fr-ca.mst
   \he\AnyConnect_he.mst
   \ja\AnyConnect_ja.mst
```

ステップ 5 標準圧縮ユーティリティを使用して、このディレクトリ構造を AnyConnect-Localization-Bundle-(リリース).zip などの適切な名前のファイルに ZIP 圧縮して、AnyConnect ローカリゼーション バンドルを作成します。

次のタスク

AnyConnect ローカリゼーション バンドルを、AnyConnect をユーザに展開するために使用する ISE AnyConnect リソースの一部として ISE にアップロードします。

AnyConnect カスタマイゼーション バンドルの準備

AnyConnect カスタマイゼーション バンドルは、カスタム AnyConnect GUI リソース、カスタム ヘルプ ファイル、VPN スクリプト、およびインストーラ トランスフォームを含む zip ファイルです。この zip ファイルは、ISE からユーザに AnyConnect を展開するために使用される ISE AnyConnect リソースの一部です。このファイルのディレクトリ構造は次のとおりです。

```
win\resource\
   \binary
   \transform
mac-intel\resource
         \binary
         \transform
```

カスタマイズされた AnyConnect コンポーネントは、次のように Windows および macOS プラットフォームの resource、binary、および transform サブディレクトリに含まれています。

- 各 resource サブディレクトリには、そのプラットフォーム用のすべてのカスタム AnyConnect GUI コンポーネントが含まれます。

  これらのリソースを作成する方法については、「AnyConnect GUI のカスタム アイコンおよびロゴの作成 （19 ページ）」を参照してください。

- 各 binary サブディレクトリには、そのプラットフォーム用のカスタム ヘルプ ファイルおよび VPN スクリプトが含まれます。
  - AnyConnect ヘルプ ファイルを作成する方法については、「AnyConnect クライアントのヘルプ ファイルの作成とアップロード （28 ページ）」を参照してください。
  - VPN スクリプトを作成する方法については、「スクリプトの作成および展開 （29 ページ）」を参照してください。

- 各 transform サブディレクトリには、そのプラットフォーム用のインストーラ トランスフォームが含まれます。
  - Windows のカスタム インストーラ トランスフォームの作成方法については、次の項を参照してください。 インストール動作の変更、Windows （2 ページ）
  - macOS のインストーラ トランスフォームの作成方法については、次の項を参照してください。 ACTransforms.xml による macOS でのインストーラ動作のカスタマイズ （9 ページ）

始める前に

AnyConnect カスタマイゼーション バンドルを準備する前に、必要なすべてのカスタム コンポーネントを作成します。

手順

ステップ 1 説明されているディレクトリ構造を、ローカル コンピュータの作業領域に作成します。

ステップ 2 resources ディレクトリに、各プラットフォーム用のカスタム AnyConnect GUI ファイルを含めます。ファイルにはすべて適切に名前が付けられ、アイコン、およびロゴのサイズが適切に調整されていることを確認します。

ステップ 3 binary ディレクトリに、カスタム help_AnyConnect.html ファイルを含めます。

ステップ 4 binary ディレクトリに、VPN の OnConnect および OnDisconnect スクリプト、およびこれらが呼び出すその他のスクリプトを含めます。

ステップ 5 transform ディレクトリに、プラットフォーム固有のインストーラ トランスフォームを含めます。

ステップ 6 標準圧縮ユーティリティを使用して、このディレクトリ構造を AnyConnect-Customization-Bundle.zip などの適切な名前のファイルに ZIP 圧縮して、AnyConnect カスタマイゼーション バンドルを作成します。

次のタスク

AnyConnect カスタマイゼーション バンドルを、AnyConnect をユーザに展開するために使用する ISE AnyConnect リソースの一部として ISE にアップロードします。